

— 市民がつくる市民のための地域環境情報誌 —

エコライフみしま



第 7 号
2006 / 5 / 1

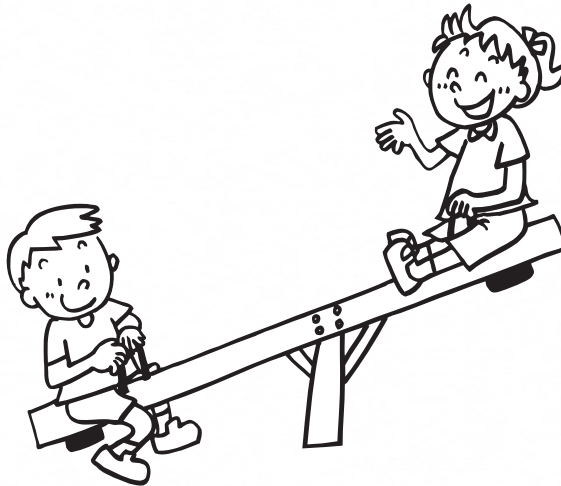
知っていますか？

市の鳥「かわせみ」市の木「いちよう」市の花「三島桜」



- 環境クイズ・・・P2、3
- 活動紹介・・・P4、5
- 守りたい、残したいところ・・・P6、7
- 環境情報コーナー・・・P8

特集
ふるさと
三島
みんなで
守りたいもの
なあに？



～次代に残したい～

三島の自然 いま・むかし

『三島八景』

三島市内には江戸時代に「三島八景」とされていたところがあります。当時この八景と三島七石、七木、七原をすらすら言うことができれば、三島人の証明として箱根の関所を通行手形なしで通ることができたそうです。八景は次のとおりです。

- ・大社の群鳥
- ・水上の富士
- ・間眠の夜雨
- ・賀茂川の蛍
- ・広瀬の秋月
- ・広小路の晩鐘
- ・千貫樋の夕景
(千貫樋…境川の上をまたいでいる樋のような農業用水路)
- ・小浜山の暮雪

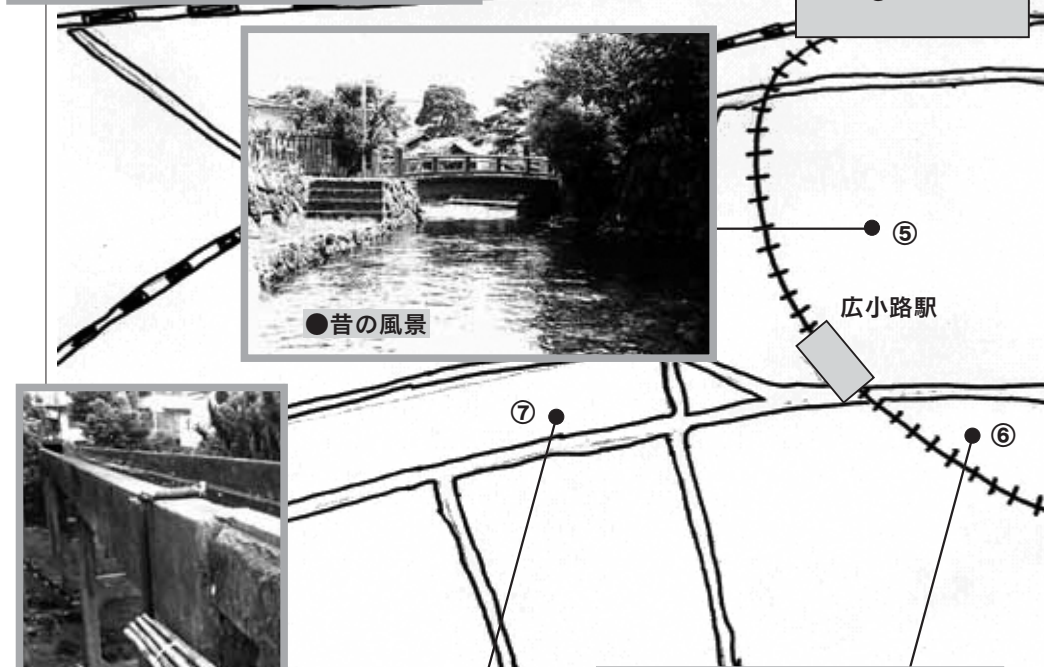
沼津市江浦の水祝儀の祭礼(江戸時代から受け継いでいる正月の伝統行事)でも歌われている「三島八景」には、三島の名所旧跡であった三嶋大社、間眠の松、千貫樋、小浜池の4カ所が歌いこまれています。



●昭和9年頃



★ヒント：こんな建物が立ちました



●昔の風景



★ヒント：今



●昔：「三島宿風俗絵屏風」



●明治時代の風景

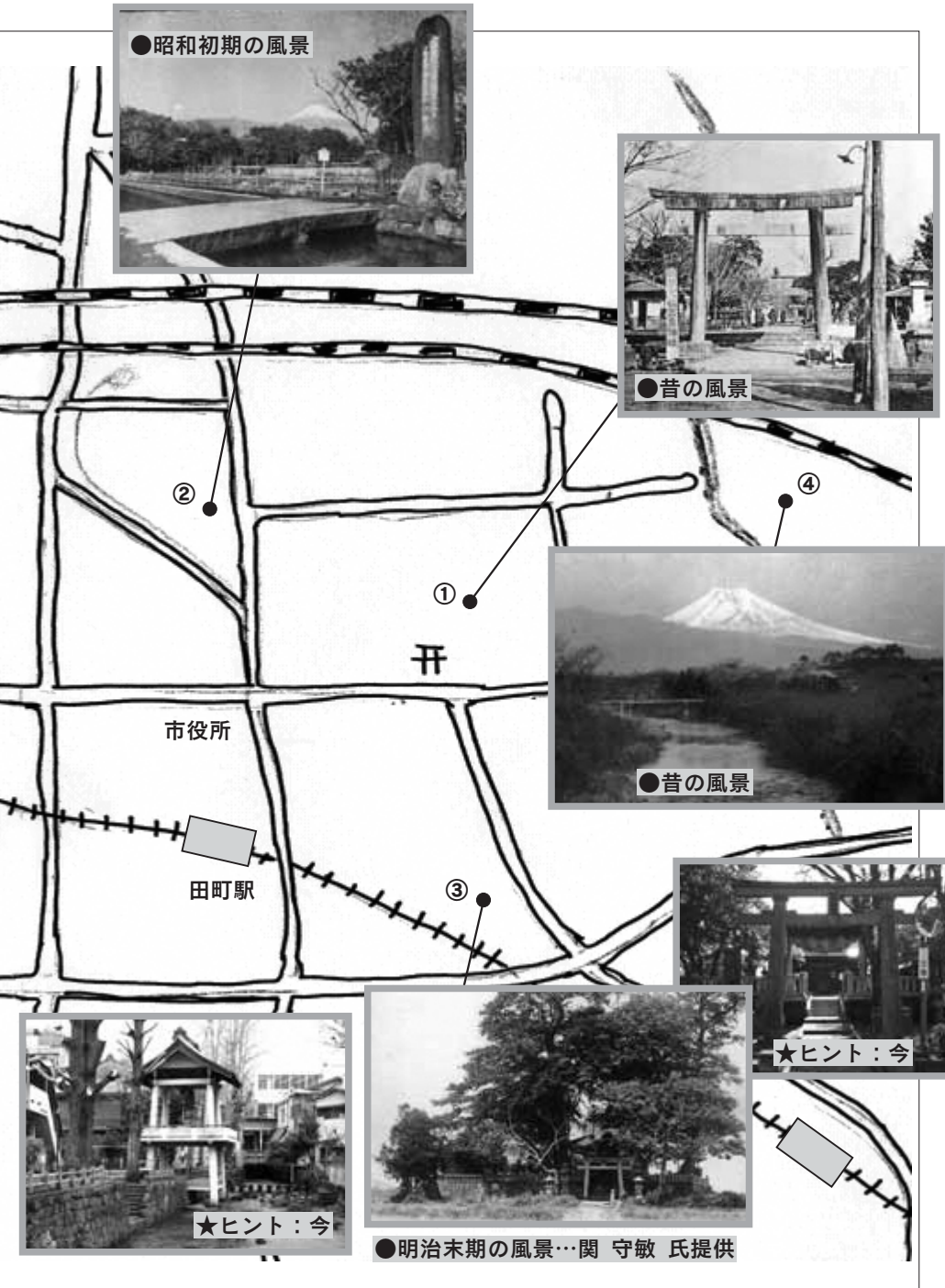
お江戸でござる 三島のうなぎのむかしといま

三島宿では、三嶋大社の使者とされていたうなぎを江戸末期まで食べることができませんでした。徳川幕府第2代将軍秀忠が三島に泊まった際、家

臣が大社の神池のうなぎを蒲焼にして食べたことを知り、この者を捕えはりつけにしたと言い伝えられています。ところが、幕末、薩摩・長州の官軍が東征途上、三島の宿で兵隊が手当たりしだいにうなぎを捕って蒲焼にして食べてしまったそうです。その後、何の神罰も受けなかったので、三島の人たちも、うなぎを食べるようになったということです。

クイズ・いっしょに探そう！！ここはどこ？

マップの1～8の場所はどこでしょうか？昔の写真などを見て考えてみよう！



『三島七石』

- ・三嶋大社の崇石
- ・耳石神社の耳石
- ・楊原神社の蛙石
- ・宝鏡院の笠置石
- ・市子石
- ・山田の鬼石
- ・蛇石

『三島七木』

- ・間眠神社の松
- ・法華寺の松
- ・石神社の松
- ・三嶋大社の楠
- ・陣屋の檜
- ・道満塚の松
- ・清明塚の松

『三島七原』

- ・初音ヶ原
- ・国府原（幸原）
- ・源氏原
- ・高天原
- ・祇園原
- ・愛宕原
- ・まないた原

※三島七石・七木・七原には、すでに見られないものやどこにあるか不明なものもあります。この他にも三島八小路（阿闍梨小路・問屋小路・上の小路・下の小路・金谷小路・細小路・竹林寺小路・菅小路）と呼ばれる所があります。

《クイズの答え》

- ①大社の群鳥：三嶋大社 ②水上の富士：大宮町付近 ③間眠の夜雨：間眠神社（東本町2丁目）
- ④賀茂川の蛍：大場川上神川橋・下神川橋 ⑤広瀬の秋月：芝本町の源兵衛川付近
- ⑥広小路の晩鐘：広小路町の時の鐘 ⑦千貫樋の夕景：加屋町の千貫樋 ⑧小浜山の暮雪：三島駅周辺

活動紹介

自分たちの住む環境をきれいに！

自分たちの住む環境を守るため、たくさんの方が清掃活動などのボランティアを行っています。あなたも参加してみませんか？

境川・清住緑地を清掃する 高島次郎さん（清住町）

清住緑地の掃除を何年も続けている人がいます。近くに住む高島さんは80代後半。毎朝地下たびを履き、

ちりとり、ほうき、シャベルなど掃除のための七つ道具を手で黙々とマイペースで掃除をしています。

緑地内の境川は、今は細い流れになっていますが、昔は川幅も広く、清流には今よりも多くの魚が泳ぎ、周囲の森には多くの小鳥たちのさえずりが賑やかだったといいます。

昔の原風景を懐かしみながら、小鳥たちのためにサクランボなど、実がなる苗木を植えたり、ひと休みできる手作りの木製ベンチも備えたり、いいと思ったことはすぐ実践に移す。心身共に健康だからこそできること。背中を丸くして清掃をしている高島さんの後ろ姿に、心からの健康長寿を願いました。

緑地からは美しい富士山も望めます。多くの方が行き交います。皆さんもぜひお立ち寄りください。そのときは、ごみを捨てないように、犬のフンは拾って持ち帰るようにしてください。



▲取材に答えてひと休み！



▲モクモク・コツコツ清掃中

ホタルの飛ぶ川を目指して 源兵衛川を愛する会

源兵衛川を愛する会は、毎月第2日曜日の午後1時から、かわせみ橋（水の苑緑地）から時の鐘橋（三石神社下流）付近まで川の中を清掃しています。

水量の多かった一昨年に比べ、昨年からは水量が少なく、梅花藻の里から移植して根付いたミシマバイカモも枯れてしまいました。ごみを拾っていて気づくのは、カワニナが増えるとホタルがたぐさん飛ぶようになることです。



▲ミシマバイカモを移植

この会は、平成5（1993）年に発足し、10年以上経ちますが、茶わんのかげらはなかなか減らず、拾っても拾っても下から出てきます。きれいな川を保つためにも皆さんの参加をお待ちしています。時々小学生たちも参加しています。

映画「坊ちゃん」に見る桜川 桜川を愛する会

桜川を愛する会は、毎月第1土曜日の午前10時から、桜川の清掃をしています。清掃以外にも白滝公園にミシマザクラを植えたり、桜川の水質検査などをしたりしています。



▲きれいな川を守るために

数年前、三島ゆうすい会と共に放流したモクズガニは大きく成長しましたが、桜川の水量が減ったため、繁殖しませんでした。

この会は、平成7（1995）年から活動を続けています。三島ゆうすい会主催で昨年上映された昭和28年の映画「坊ちゃん」では桜川にあふれんばかりの水量が映し出されていました。その復活に向けて清掃に励んでいます。

学校でも取り組んでいます 錦田中学校の松並木清掃

松並木の清掃に地域の人たちと一緒に、ボランティアで参加している錦田中学校へ取材に出かけました。その日は学校の昼休みに、男女3人ずつ6人の生徒に参加してもらいました。



◀松並木敷の落ち葉やごみを掃き集める生徒たち

学校側に聞きました

—活動のきっかけは？

地域ボランティア団体「松並木と一里塚を守る会」から、4年位前に「松並木の清掃に参加してみませんか」と声をかけてもらい、生徒の参加者を募ったところ希望者が100人近く殺到。2年目からは希望者を学年ごとに振り分け、現在は1回に20人～30人がローテーションを組んで継続参加しています。

活動は年間を通して偶数月の第2日曜日、午前8時に愛宕町の上り線バス停に集合。地域の人たちと一緒に2～3時間かけて清掃活動をするようになりました。

生徒にインタビュー

—ボランティア活動に参加した動機は？

- ・友だちに誘われたから。友だちと何か一緒にやってみたかった。
- ・自分にできるボランティアはないかと思っていた。
- ・地域の役に立ちたかった。

—清掃しているとき、どんなごみが多かった？

- ・主に落ち葉を掃き集めるけど、落ち葉の量がとても多くてびっくり。そのほか、お菓子の袋等のビニール袋、空き缶、ペットボトルなどが捨てられています。

—落ち葉は腐って肥料になるからと、根本に掃き集めておいてはいけないの？

- ・落ち葉の中は暖かいので、虫が集まって木を枯らすので、必ず落ち葉は袋に入れてごみに出します。

—守って（残して）いきたいと思うのは？

- ・この活動に参加したので、自分たちの手で松並木や地域を守っていきたい。
- ・国立遺伝学研究所前の桜並木がきれいなので、守っていきたい。
- ・木や緑を残してほしい。
- ・ミシマバイカモを見てみたいし、残していきたい。



◀取材に協力してくれた左から石井蘭さん、田中志保里さん、一杉優衣さん、丹野直人さん、長谷川弥久さん、児玉和久さん

旅人の憩いの場「松並木」と眺望

国道1号を箱根に向かって上っていくと、愛宕町バス停付近から江戸時代の旧東海道が通っていて、道の両側に松並木があります。この松並木は旧東海道中、市内に残っている唯一のもので、延長1km以上に及んでいます。

「武功年表」によると、幕府が松並木を植えさせたのは1604年で、「夏は木陰を作り旅人を憩うところとさせた」と記されています。夏は旅人のために並木の木陰は涼しい風を送り、疲れをいやし、冬は並木が風を防いでくれたと思われます。

富士が目の前にせまり、周りが開けた情景は、三

島市の眺望地点の1つになっており、「ずしゅうしこう豆州志稿」に「ほうらん官道の老松背後に列立し、遠く駿遠の峰巒を望む風景頗る佳なり」と記されています。



▲延長1km以上に及ぶ松並木(国道1号上り線)

守りたい、 残したいところ

ふるさと新発見

三島にも「棚田」があった

三島を訪れる人からは「水がおいしいね!」、「水がきれいだね!」とよく言われ、私たちは富士山や箱根山の自然からの恵みに毎日感謝しています。水量が豊かでおいしい「地下水」を守るためには、山を守り、健全な森林を育てることが大切です。

しかし、全国的にここ数十年、社会経済や生活環境の変化により、放置された人工林、田畑、竹林が広がっています。

ところで、皆さんは三島に美しい「棚田」が残っていることを知っていますか？

先日、人工林の間伐や山田川流域の里山再生を手がける「三島フォレストクラブ」の古瀬会長の案内で、大場川の支流のひとつ、山田川を歩いてみました。三島にはないと思っていた「棚田」に案内されました。そこには、棚田をはじめ、近年失われつつある日本人の心のふるさとと呼べる「里山」があり、とても感動しました。

「里山」とは、集落を形成する、雑木林や竹林、川、棚田、畑などを含めた生活エリアを指します。

地域の人々の暮らしに深く関わりながら、自然の恵みをもたらしてくれる里山。その大切さを改めて感じた地元住民や市民有志、ボランティア団体などが協力して、流域の自然環境に適した里山づくりを地道に始めようとしています。



▲山田川周辺の棚田



▲山田川周辺の雑木林を歩く

残したい山田川の里山

放置された棚田などの復元や竹林の整備、針葉樹林と広葉樹林の混交林化など、残したい里山風景を自分たちの手で守ろうと立ち上がったのです。

里山周辺には、おいしい水をつくったり、土砂の流出を防いだり、私たちに様々な恵みをもたらしてくれる森林があります。また、山村や農林業の生活体験もでき、子どもたちが遊ぶ水辺もあります。家族や仲間たちで集まり、ウォーキングで自然を肌で感じ、心をリフレッシュする場所としても最高です。

みんなで知恵を出し合い、美しい里山風景を大切に守っていけたらステキですね!

一度は足を運んでほしい山田川

山田川流域の里山には、所々に雑木林が広がり、さまざまな植生を見ることができます。落葉広葉樹林が、新緑、紅葉、落葉と季節ごとに、いろいろな姿を見せてくれ、美しい景観が残されています。

この辺りは、今まで里山として、炭や材料、食材、薬草への利用など、生活の知恵が育まれた場所で、自然との共生を継承していく場として、地域の人々の暮らしに関わってきました。

目的はいろいろですが、ハイキングやバードウォッチングなど、まずは、足を運んで、自然と親しむことから関わってみてはいかがでしょうか。



▲山田川の鬼石

大事にしたい！郷土の宝物

樹木は、私たちの五感に四季を通じて、新緑、紅葉、落ち葉、涼風、木蔭などの自然の素晴らしさや味わいを与えてくれます。また、空気の浄化や土に水を蓄え、私たちだけでなく、鳥、小動物、昆虫などにとっても大切な生活の場になっています。

三島には、箱根西麓の森のほか、何百年も前から生き続けている木や森、名の知られた樹木や並木などが多くあり、大切に守られています。

緑のまち三島、このような心をいやす歴史のある巨木や美しい自然の景色をこれからも大事にしていきたいと思います。ここでは三島の代表的な巨木を紹介します。

【国指定の天然記念物】



◀三嶋大社のキンモクセイ（大社境内）

- 木の高さ…15m
- 幹の太さ…3.3m
- 推定樹齢…約1,200年

【県指定の天然記念物】



◀駒形諏訪神社の大カシ（山中新田）

- 木の高さ…25m
- 幹の太さ…6.2m

この他に、御獄神社の親子モッコクがあります。

【市指定の天然記念物】



◀神明宮神社の森（御園）

- 木の高さ…30m前後のものが多い
 - 推定樹齢…300年余のクスノキ、イヌマキが存立
- この他に、耳石神社のイタジイ、願成寺のクスノキ、中のカシワ、駒形諏訪神社の矢立の杉があります。

守りたい！市の鳥、市の木、市の花

表紙にも記載してあるように、三島市では、市を象徴する木、花、鳥を次のとおり、制定しています。

【市の木：イチヨウ】

- 市制30周年記念に昭和45年10月11日制定。
- オススメの場所…文教町のイチヨウ並木、神社・寺院の境内、学校の校庭などに見られます。
- 「イチヨウ」という名の由来…イチヨウの漢名は、孫の代にならなければ実をつけないことから、「公孫樹」と名付けられたといわれます。

【市の花：三島桜】

- 市制30周年記念に昭和45年制定。

- オススメの場所…三嶋大社の境内や神門前の参道沿い、国立遺伝学研究所、小学校（西小等）などに見られます。

【市の鳥：カワセミ】

- 市制60周年記念に平成13年4月29日制定。
 - オススメの場所…楽寿園、白滝公園、源兵衛川、水の苑緑地、境川清住緑地、松毛川など。（一年中、特に12月～3月に多く見られる）
- ※市制は昭和16年4月29日施行

よく目を凝らして、わたしを見つけてみて！





環境情報コーナー



エコライフクロスワードパズル

1		2		3		4
5	6	D				
7			8E			
		9			10	
	11		12	13		
14				15A	C	
16			17			18
19B			20			

「ヨコのカギ」と「タテのカギ」から左のパズルの空欄を埋めて、A～Eの言葉を考えてみてください。

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

【ヨコのカギ】

- 2 富士山にも設置した□□□□□トイレ。
- 5 電線類地中化の工事の間、□□□してください。
- 7 花粉症で一番多い原因は□□□□□。
- 9 地下水を守るには、みんなで□□を育てないと！
- 12 美しい□□□□が自慢です。
- 14 山田川流域に残っていた段々畑のこと…□□□
- 15 魚の多くは□□呼吸。
- 16 提案に賛成の人は、□□なし！と認めます。
- 19 農機具を入れるための□□を建てる。
- 20 三島市の鳥は、□□□□です。

【タテのカギ】

- 1 地下水が湧き出した水のこと…□□□□。
- 2 三島のせせらぎに咲く可憐なミシマ□□□□。
- 3 家族をつれて帰省するのは□□□の頃が多い。
- 4 水から□□□を取り出して自動車の燃料電池に。
- 6 我が家の防犯対策はきちんと□□をかけること。
- 8 フリーマーケットを略して□□□。

- 10 森には“なら”や“□□□”を植えよう！
- 11 土用の丑の日には□□□□さんに行列が！
- 13 江戸時代は□□を使って省エネ生活。
- 14 夏祭りには笛や□□□、しゃぎりの音が賑やか。
- 17 三嶋大社で飼われている□□は人懐っこいね。
- 18 家庭から出る□□を減らすことが大きな課題。

「市民エコライフカルタ」を作いませんか？ ～「読み札」を募集します～

あしがわり
みしまのまちの
ひやくえんバス

左の例のように、環境にちなんだ50音から始まる「読み札」を募集します。次回本誌で紹介する予定です。

下記編集事務局まで FAX、メール等により、氏名、住所を添えてご応募ください。

《クロスワードパズルの答え》

- 1 ゆうすい 2 バイオマス、バイカモ 3 おぼん
- 4 すいそ 5 うかい 6 かぎ 7 すぎかふん 8 ふりま
- 9 もり 10 こなら 11 うなぎや 12 まちなみ
- 13 ちえ 14 たなだ、たいこ 15 えら 16 いぎ
- 17 しか 18 ごみ 19 こや 20 かわせみ

A	B	C	D	E
え	こ	ら	い	ふ

【編集後記】

今回は、市民の皆さんに守りたい、大事にしたいところを改めて知っていただきたいと思い、このテーマにしました。

地球環境の現状は想像以上に深刻ですが、少しずつ変化しているのわからないのです。

今ある豊かな環境を次代に引き継ぐために、私たちは何をすべきなのでしょう？私自身も自分たちの住む地域を見つめ直していきたいと思います。(み)

編集スタッフ（市民ボランティア）

飯田喜一・石橋幹人・大村洋子・河嶋禧男・佐伯忠夫・重間良子・鈴木忠宣・高橋由美子・永嶋章吉

ポイ捨てはやめようね！



第7号（5月・10月の年2回発行）

平成18年5月1日発行

〒411-0858 静岡県三島市中央町5-5

三島市役所中央町別館

環境企画課環境政策室内

「エコライフみしま」編集事務局

TEL：055-983-2647

FAX：055-976-8728

E-mail:kankyoku@city.mishima.shizuoka.jp

古紙配合率100%再生紙を使用しています。この再生紙も、さらに再生可能な資源古紙です。

<http://www.city.mishima.shizuoka.jp/>（広報みしまと一緒に掲載中）